

-Index-

紙上報告① 第16回「きこえない」を知る二日展
手話通訳のあるサッカー観戦
第12回「みみネットアカデミー」ご案内



紙上報告①

第16回「きこえない」を知る二日展

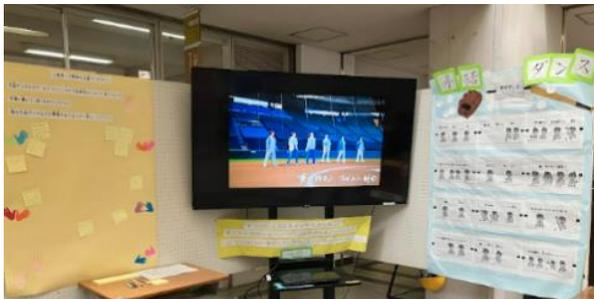
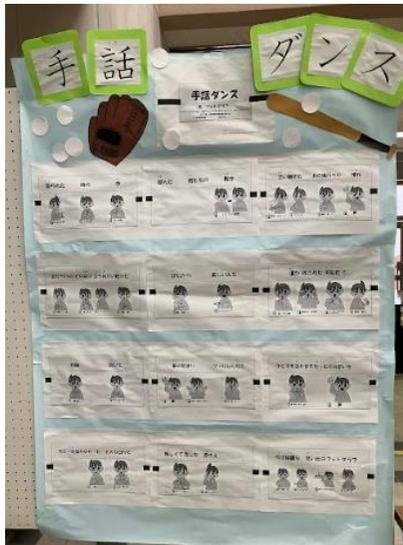


11月10日(金)及び11日(土)に、本校文化祭にて、第16回「きこえない」を知る二日展を開催しました。紙面にて、展示の内容をお伝えします。

手話ダンス

手話をもとにしたダンスが評判になった夏の高校野球応援ソング「フォトグラフ」を展示しました。

会場では、実際の動画とともに、それぞれの手話表現について掲示しました。また、手話ダンスをみて良かったところなど、来場者に記入していただきました。



— 付箋より —

「涙さえ」のところが好き。

とても自然に手話がダンスに取り入れられていて、かっこいいです。

手話の意味をうまくダンスに取り入れているなあと思います。

みんなで協力して手話ダンスをしていて、かっこよかった。

手話ダンスかっこいい！

甲子園に入っているのうらやましい。

もっといろんな歌が増えていくといいなあと思いました。

とてもかっこいいです。みんなで踊れたら良いですね。

生活に使えるアイテム・アプリ

きこえにくい人にとって便利なアイテムやアプリを紹介しました。会場では、いくつかのアプリをダウンロードしたタブレット端末を用意して、実際に体験していただきました。また、新しく開発された傘「サイレント・アンブレラ」を展示しました。

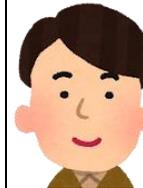
【ご紹介したアイテム・アプリ】

Google ドキュメント

私は、Google ドキュメントを一番使っています。相手の言っていることがわからないときは、スマホに話してもらっています。誤変換も少なく助かっています。



「音声入力」は、パソコンやスマートフォンのマイクで拾った音声を自動で文字起こしするもので、比較的高い精度で音声を文字に変換することができます。



いろいろな店のアプリを使うことで、モバイルオーダーをすることができます。店頭で注文する必要がなくなるので、便利でよく使っています。

モバイルオーダー

以前は電話しなければいけなかったことが、簡単に予約できるようになりました。



電気屋さんに修理の見積もりをお願いしたいときなどには、FAXでなければいけないときがあるので、このアプリを使っています。

モバイル FAX

FAXのアプリは、設定をすることで、スマートフォンやタブレット端末で、いつでもどこでも送受信ができます。



身の回りの音を認識して、ユーザーに通知してくれるスマートフォン用アプリです。

Sound Display

AI、スマートデバイス、クラウドをフル活用し、より良い社会の実現をめざしています。

ミライロ ID

障がい者手帳を持っていなくても、スマートフォンがあれば、障がい者割引を受けることができます。クーポンなども配信されるので便利です。



障がいのある人を対象にしたアプリです。鞆や財布から取り出していた障がい者手帳を、スマートフォンでパッと提示することができます。

メモアプリ

iPhoneの「メモ」がシンプルで使いやすいです。コミュニケーションで困ったら、メモで書いて見せたり、書き込んでもらっています。



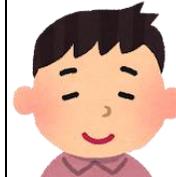
テキスト入力もでき、手書きでもメモを作成することができます。Androidでも同じようなメモのアプリがあります。



QRコード決済は、安心して使うことができます。

QRコード決済

現金やカード支払いでは、「お支払回数はいくつですか?」など質問があることがありますが、QRコード決済等では、ほとんどコミュニケーションを回らずに買い物を済ませることができます。



手話をわかりやすく楽しみながら学べるアプリです。

ゲームで学べる手話辞典

直感的に学ぶことができる、ゲームで学ぶことができる、豊富な収録数(最大3,000以上の手話を学習できます)などの特徴があります。

あいうえオン

正しい発音ができただかどうかを自分自身でフィードバックすることは困難です。話すことに苦手意識を感じている児童生徒が多くなっている現状を鑑みて開発されたアプリが「あいうえオン」です。



スマートフォンの音声認識で日本語の練習ができます。現在は母音(あ、い、う、え、お)のみ対応しています。



雨音が雪のようなパサパサとした優しい音色に変化します。

サイレント・アンブレラ

雨天時に、ビニール傘と比較したところ、雨の音が小さくきこえました。二重構造になっているので、涼しく熱中症対策にも繋がります。



次号で、紙上報告②を掲載します!

手話通訳のあるサッカー観戦

サッカーJ1リーグのセレッソ大阪とそのパートナー企業である塩野義製薬株式会社が、「子どもの未来支援」にかかる取り組みの一環で、本校の幼稚部から中学部までの幼児児童生徒を、パブリックビューイング試合観戦に招待してくださいました。



10月21日(土)、ヨドコウ桜スタジアムで行われたイベントでは、試合観戦前に選手の使用するロッカールームや試合が行われる芝生ピッチなどを、実際に見学体験できるスタジアムツアーが行われました。その後、スタジアムの大型スクリーンで試合映像をパブリックビューイングしました。その際、試合映像の実況中継に手話通訳がついたのです！おそらく大阪で行われるサッカーの試合観戦に手話通訳がつくのは初めてのことだと思われます。通訳は大阪府手話通訳者の方2名が担当してくださいました。

試合の実況や解説者の話は、展開の速い試合の流れとともにサッカー専門用語の飛び交うものです。手話通訳には高度な技術が求められます。

今回は実況全ての通訳ではなく、ファールやスローイン、ゴールキックなど試合が止まったときを中心に、ゴールに迫って惜しい場面を「惜しい！残念！」、逆にゴールを奪われそうになったシーンを「あぶない、セーフ！」と言った感情込みの表現でわかりやすく楽しい通訳をしていただきました。参加した子どもたちも試合の様子がよくわかったようで楽しんでいました。「また来たい！」という声もきかれました。



子どもたちにとって、サッカー実況の手話通訳は、どういった内容が必要なのか、まだまだ検証や改善が必要です。きこえる子どもたちが、内容を理解していなくても自然と耳にしている情報を、聴覚障がいのある子どもたちも手話通訳を通じて少しでも保障できるのであれば、それにこしたことはないと考えます。



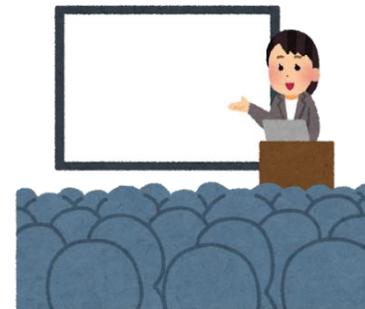
2025年には東京でデフリンピックも開催されます。このような機会が広がり、サッカーのみならず、様々なスポーツ実況中継の手話通訳が進んでいくことを願ってやみません。

(報告) 幼稚部・黒川

案内: 勝矢寿延セレッソ大阪アンバサダー(右)

第12回 みみネット アカデミー

きこえにくい子どもたちは、きこえる子どもたちに比べ、聴覚から入力される言語情報が少ないことから言語発達の遅れが指摘されています。そこで、今年のみみネットアカデミーでは、きこえにくい子どもたちの言語発達についてお話したのち、本校幼稚部、小学部の教員が日々子どもたちの「ことば」を育てるために、どのようなアプローチをしているか、また、どのようなことに気を付けているのかをご紹介します。



<期 日> 令和5年12月25日(月)
<対 象> 大阪市および守口市内の学校園の教職員
大阪府下の高等学校および支援学校の教職員

<プログラム>

9:30~	受付
9:45~9:55	開会式(挨拶、諸連絡)
9:55~10:15	Lesson 1「きこえにくい子どもの言語発達」 講師:本校首席 木村 純子(幼稚部)
10:15~10:45	Lesson 2「幼稚部段階でのアプローチ」 講師:本校教諭 土口 真奈(幼稚部)
10:55~11:25	Lesson 3「小学部段階でのアプローチ」 講師:本校教諭 山口 亜希子(小学部)
11:25~11:45	質疑応答、総合討議
11:45~	閉会式

申込締切(必着)
12月6日(水)

<定 員> 25名(定員になり次第締め切ります)

<会 場> 大阪府立中央聴覚支援学校(大阪市中央区上町1-19-31)

<申込み> 学校園にメール配信している申込用紙に必要事項をご記入のうえ、郵送か通送、またはFAXにて下記までお送りください。

通送便 ▶ 中央区 大阪府立中央聴覚支援学校 支援部宛

郵 送 ▶ 大阪市中央区上町1-19-31 大阪府立中央聴覚支援学校 支援部宛

F A X ▶ 06-6762-1800

<お問い合わせ> 大阪府立中央聴覚支援学校 支援部(担当:金森)

「みみネット」編集部:

大阪府立中央聴覚支援学校 聴覚支援センター 担当:中咲、金森

〒540-0005 大阪市中央区上町1-19-31

TEL. 06-6761-1419 FAX. 06-6762-1800